

KERNOM

ELIPSE
USER MANUAL

V 1 - 01.01.2025

新しいモジュレーション・プレイグラウンドを楽しもう

ELIPSEは、モジュレーション・エフェクトのユニークな体験を提供するために設計され、1台でアナログ・モジュレーションの主要なトーンをすべて備えています。ELIPSEでは、これらのトーンをエキサイティングな方法で探求することができ、これまでに聴いたことのあるモジュレーション・サウンドはもちろん、まだ想像したことのないようなサウンドまで、予想外のトーンや独創的なサウンドであなたを驚かせることでしょう。

ELIPSEの心臓部には、特許取得済のアナログ・モーフィング・コア回路が搭載されており、デジタル技術によって制御されたアナログ・オーディオ・パスをベースに、アナログ・トーンの温かみと明瞭さを兼ね備え、1つのエフェクトから別のエフェクトへ連続的にモーフィングするユニークな機能を備えています。

高度なMIDI機能により、プリセットの保存と呼び出し、タップ・テンポとMIDIクロックの設定、さらにエクスプレッション・ペダルを接続して2つのプリセット間をシームレスにモーフィングすることもでき、サウンドの探求をダイナミックで遊び心のあるものにします。

ELIPSEで、魅惑的なモジュレーション・エフェクトの世界への素晴らしい旅をお楽しみください。あなたがライブで演奏するとき、スタジオで作業するとき、あるいは自宅で実験するときなど、私たちがELIPSEを設計し、思い描いたときと同様に、ELIPSEを楽しんでいただければ幸いです！

Kernomチーム一同



モジュレーション・エフェクトとは

モジュレーション・エフェクトは、スタジオでもステージでも、音楽の基本的な要素です。1950年代、アンプに内蔵されたトレモロ・エフェクトとして初めて登場し、その後1960年代から1970年代にかけてビブラート、コーラス、フェイザー、フランジャー・ペダルへと進化しました。

この「モジュレーション・エフェクト」という言葉は、サウンドの核となる一面が低周波オシレーター（LFO）によって周期的に変調されることに由来します。

トレモロ・エフェクトでは、LFOによって音量が変調され、演奏にリズムの変化が生まれます。

ビブラートでは、音の高さが変調され、ギターをベンドするのと同じような効果をもたらされます。

コーラスでもピッチも変調されますが、ここではダイレクト信号が変調された信号と混ぜ合わせ、まるで合唱団のような厚みのある豊かなサウンドが作り出されます。

フランジャーはディレイを使用し、ディレイ・タイムはLFOによって変調されます。ディレイ信号はダイレクト信号とミックスされ、ジェット機が飛んでいくようなサウンドを連想させるコームフィルター効果を発生させます。

ここで注目すべきは、アナログ・エフェクトでは、コーラスとフランジャーの違いはコーラスのディレイ・タイムが長いだけで、作り方は同じだということです。

フェイザー・エフェクトは、信号の位相を変調するオールパス・フィルターによって生成されます。ダイレクト信号と変調された信号は混ぜ合わされることでフランジャーに似たエフェクトを生み出しますが、独自の特徴的な音色を持っています。このエフェクトは、微妙に変化する質感を作り出したり、リズム・パートにグルーヴィーでファンキーな感触を加えたりするのに威力を発揮します。

ヴァイブ・エフェクトは、独特のオールパス周波数を持つユニークなタイプのフェイザー回路です。

最後に、**ロータリー**・エフェクトはこれらの変調をいくつか組み合わせて、回転するスピーカーのサウンドをシミュレートし、うねりのある豊かな動作を生み出します。

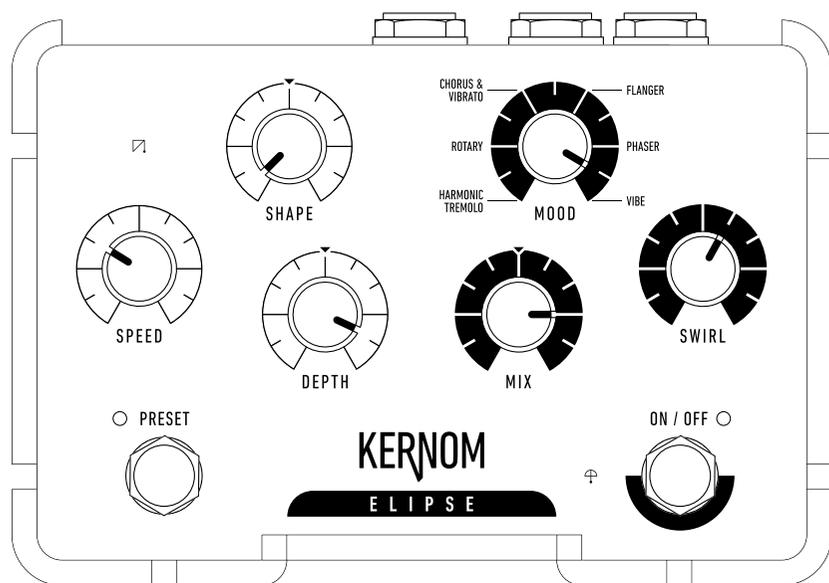
あらゆる音楽ジャンルで使われるモジュレーション・エフェクトは、サウンドに深み、ダイナミクス、ハーモニクスの豊かさをもたらします。ギター、シンセサイザー、ボーカルのいずれに使用しても、サイケデリックなものからグルーヴィーなものまで、幅広い雰囲気を作り出します。その汎用性の高さから、ミュージシャンにとってもプロデューサーにとっても欠かせないツールになっています。

- 02 — ようこそ
- 03 — モジュレーション・エフェクト
- 05 — 主な機能
 - 06 — フロントパネル
 - 07 — リアパネル
 - 08 — はじめに
 - 09 — MOODノブ
 - 10 — MIXとDEPTHノブ
 - 11 — SHAPEとSWIRLノブ
 - 12 — 参考例
- 13 — アドバンス機能
 - 14 — 内部プリセットの保存と呼び出し
 - 15 — 内部プリセットの編集
 - 16 — エクスプレッション・ペダルの使用
 - 17 — ファクトリーセッティング
 - 18 — フットスイッチの設定
- 19 — MIDI機能
 - 20 — MIDI機能について
 - 21 — MIDIチャンネル設定
 - 22 — MIDI OUTコネクタの設定
 - 23 — MIDIプリセットの保存
 - 24 — MIDIプリセットの呼び出し
 - 25 — MIDIプリセットの編集と、同じプリセットへの保存
 - 26 — MIDIプリセットを内部プリセットへ保存
 - 27 — MIDIプリセットを編集して内部プリセットへ保存
 - 28 — MIDIプリセットを別のプリセットへ保存
 - 29 — 内部プリセットをMIDIプリセットへ保存
 - 30 — MIDIプリセットを使ったエクスプレッション・ペダルの設定 1
 - 31 — MIDIプリセットを使ったエクスプレッション・ペダルの設定 2
 - 32 — MIDIプリセットを使ったエクスプレッション・ペダルの設定 3
 - 33 — MIDIプリセットを使ったエクスプレッション・ペダルの設定 4
 - 34 — MIDIコントロールチェンジ
 - 35 — MIDIタップテンポ
 - 36 — MIDIクロックの同期
 - 37 — MIDIテンポ・サブディビジョン
- 38 — 仕様
- 40 — 保証

E L I P S E

主な機能

フロントパネル



ON/OFF フットスイッチ

エフェクトのON/OFFを切り替えます。

PRESET フットスイッチ

フットスイッチを押すと、保存したプリセットと現在ノブで設定されているセッティングを切り替えることができます(14ページ参照)。

LED

ペダルの動作状況を表示します。

Note: エフェクトON時、ON/OFF LED は実際の LFO スピードに合わせて点滅します。

モジュレーションに関連するコントロール(左側)

SPEED

モジュレーションのレートを調整します。

SHAPE

モジュレーションの波形を調整します。ノブを中央の位置に設定すると、クラシックな三角波になります(11ページ参照)。

DEPTH

モジュレーション・エフェクトの強さ(深さ)を調整します(10ページ参照)。

コアエフェクトに関連するコントロール(右側)

MOOD

代表的なクラシックなモジュレーション・エフェクトにこの1つのノブでアクセスができます。コーラスかフランジャーかを選択する必要はなく、好みのサウンドが見つかるまでダイヤルを回すだけです(9ページ参照)。

MIX

MIXはウェット信号とドライ信号のブレンドを調整します。

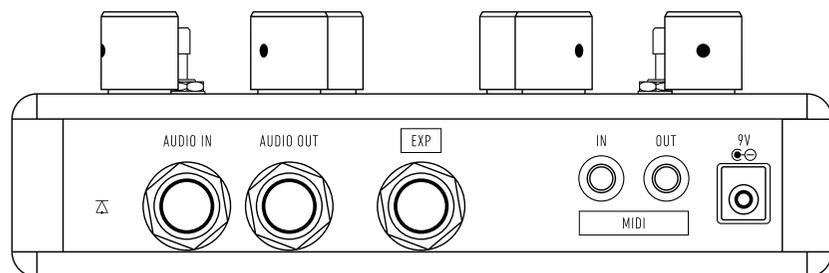
12時の位置では、50/50のミックスで定番のエフェクトを得られます(10ページ参照)。

SWIRL

メインエフェクトにサブ・レイヤーを追加します。

ノブの12時のポジションより前では緩やかなフェイザー、12時以降ではドライブ効果を加えます(11ページ参照)。

リアパネル



AUDIO IN

1/4" モノフォンケーブルを使用して楽器もしくはライン出力デバイスを接続する INPUT ジャックです。

AUDIO OUT

1/4" モノフォンケーブルを使用してアンプや次のエフェクターと接続するOUTPUT ジャックです。

EXP

TRS(Tip-Ring-Sleeve) ケーブルを使用して外部エクスペッション・ペダルを接続して、すべてのノブを連続的にコントロールできます。

MIDI IN

TRSミニジャック・タイプA接続のMIDI入力端子です(19ページ参照)

MIDI OUT

TRSミニジャック・タイプA接続のMIDI出力端子です。

電源

ペダルの電源には、最低出力150 mAの標準的な9Vセンターマイナス電源を使用してください。



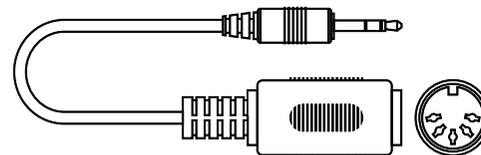
重要：ELIPSEはMIDI機能にTRSミニジャック・タイプA接続を採用していますが、外部アダプター(別売)を使用することで5ピンDINコネクターにも対応します。



注意：MIDI-TRSケーブルには2つのタイプがあります：

ELIPSEはタイプAのケーブルのみに対応しています。

ELIPSEを使用する際は、必ずタイプAのMIDI-TRSケーブルをお買い求めください。



TRS mini jack type A

ELIPSEは、エレキギターやベースなどの楽器信号に対応する低ノイズの入力回路が搭載されており、ミキシング・デスクやシンセサイザーからのラインレベルの信号も扱うことができます。



TIP：一般的に、モジュレーション・ペダルはシグナル・チェーンの中で、オーバードライブ、ディストーション、ファズ・ペダルの後段に配置されます。このセッティングにより、ドライブ回路が作り出すハーモニクスが強調されサウンドに動きが加わります。

しかし、ELIPSEの後段にドライブ・ペダルを配置することで、まったく異なる結果が得られ、実にユニークで興味深いトーンを生み出すことができます。

ELIPSEをシグナル・チェーンにどのように配置するか、ぜひ試してみてください！

新しい発見のための簡単なステップ

このペダルの使い方をマスターするには、以下の簡単なステップを踏んでください：

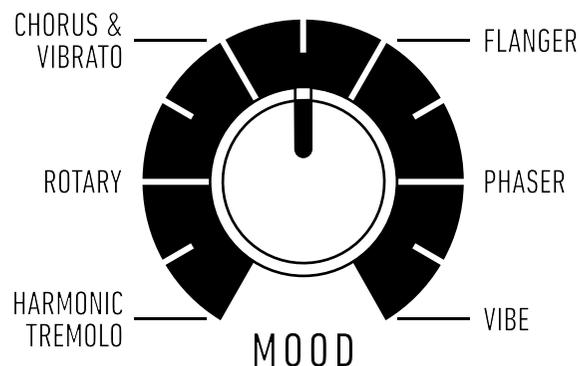


1. すべてのノブを12時方向に設定します。ただし、SWIRL ノブは最小に設定します。
2. MOODノブを最小にして、モジュレーションの調整から始めましょう。
3. MOODノブを徐々に回して、ELIPSEに搭載された6つの異なるエフェクトを試してみてください。これらのアナログ・モジュレーション・エフェクトのクラシックでウォーム、そしてスムーズなトーンを確認できるでしょう。
4. 楽曲のテンポに合わせてSPEEDノブを調整します。

 **TIP**：速いスピード設定時にエフェクトが強すぎたり実験的だと感じたりしたら、ためらわずにDEPTHノブを下げてみてください(高速ビブラート・プリセットを使ってください)。

 **注意**：ELIPSEにはボリュームノブはありません。Analog Morphing Coreテクノロジーのおかげで、出力レベルは常に一定で、入力レベルに完全に一致します。

MOODノブ

**CHORUS VIBRATO**

音程シフト・モジュレーション

ROTARY

振幅、ピッチ・シフト、位相変調の組み合わせ

HARMONIC TREMOLO

振幅モジュレーション

FLANGER

コムフィルター・モジュレーション

PHASER

位相シフト・モジュレーション

VIBE

振動位相モジュレーション

Mood ノブはELIPSEユーザーエクスペリエンスの真髄であり、極めてユニークな方法でモジュレーションの可能性を追求することができます。

MOODノブは、ELIPSEの無限のモジュレーションの可能性を開放する連続可変コントロールです。この革新的な機能により、様々なモジュレーション・エフェクト間をシームレスにモーフィングすることができ、特定の位置でクラシックなエフェクトを選択したり、その間の位置で全くユニークなハイブリッド・サウンドを作り上げることができます。

MOODノブを使えば、コーラスかフランジャーかを選ぶ必要はなく、好みのサウンドが見つかるまでダイヤルを回すだけです。

 **Tip** : まずはラベルの付いたポジションを選択し、クラシックなエフェクトを試してみてください。次に、その中間の位置を試して、新しくユニークな色合いの音色のテクスチャーを発見してください。

エフェクトの順番は、どのポジションでも音楽的な効果が得られるように設計されています。

ロータリー・エフェクトは、トレモロ・エフェクトの振幅モジュレーションと、コーラス/ビブラート・エフェクトの変調ピッチ・シフトの中間に位置し、回転スピーカーのドブラー効果によりその両方の要素が組み込まれています。このように置き方を変えることで、特定の曲に最も適したモジュレーションのタイプを徐々に選択できるようになります。

コーラスとフランジャーは、技術的には同じエフェクトのバリエーションであるため近くに配置されています。この設計により、クラシック・コーラスからフル・ジェット・フランジャーへスムーズに移行できます。同様に、フランジャーの等間隔の櫛型フィルタリングからフェイザーの滑らかなフェイズ・シフトへもシームレスに移行できます。

最後に、バイブ・エフェクトはフェイザー回路の一種であるため、MOODノブの最後の部分には幅広いフェイジング・バリエーションが用意されており、さらにクリエイティブな可能性が広がります。



注意: MOODの"HARMONIC TREMOLO"モードでは、MIXを中央の位置に設定することでハーモニック・トレモロに、MIXを最大の位置に設定することでフルレンジ・トレモロに設定することができます。



注意: MOODの"CHORUS & VIBRATO"モードでは、MIXを中央の位置に設定することでコーラスに、MIXを最大の位置に設定することでビブラートに設定することができます。

10 概要

MIXとDEPTHノブ

エフェクトを探ろう：

MIXノブとDEPTHノブ

次の2つのコントロールを試してみましょう：MIXノブとDEPTHノブはどちらもエフェクトの強さに作用しますが、その効果は異なります。



MIXノブは、ドライ信号とウェット信号をブレンドします。

最小位置では、全くエフェクトのかかっていないドライ信号のみが聞こえます。中間ポジションでは、各エフェクトを典型的な状態で聴くことができます。ノブを右に回すとエフェクトの強さが増しますが、その効果はMOODポジションによって異なります。



Tip : MOODノブのハーモニック・トレモロポジションでは、MIXノブを中間の位置に設定するとハーモニック・トレモロ効果が得られます。MAXポジションに設定すると、標準的なトレモロのような、より強力な豊かな振幅のモジュレーションが得られます。



HARMONIC

FULL TREMOLO



Tip : コーラス&ビブラートモードでは、MIXノブを12時の位置に設定すると、ドライ信号とウェット信号が均等にブレンドされたクラシックなアナログ・コーラス効果が得られます。MIXノブを右に振り切るとピッチ・シフトされた信号のみが通過し、フル・ビブラートエフェクトが得られます。

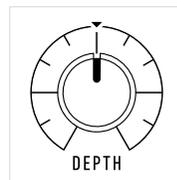


CHORUS

VIBRATO



Tip : フランジャーとフェイザーのモードでは、MIXノブを中央から最大に回すと音にフィードバックが加わり強力なコムフィルター効果が得られます。



DEPTHコントロールを使って、モジュレーションの量や振幅を調節します。

DEPTHを低く設定すると控えめなモジュレーションになり、高く設定するとエフェクトが強調されサウンドに顕著な変化が生まれます(トレモロの音量変化やコーラスのピッチ変化など)。



Tip : MOODノブのハーモニック・トレモロポジションでは、MIXノブを最大にすることで振幅モジュレーションがフルになります。

次にDEPTHを中間あたりに設定すると、クラシックで滑らかなトレモロ・サウンドが得られます。DEPTHを最大にすると、矩形波モジュレーションを最大にしたようなよりシャープでスタッターの効いたエフェクトになります。



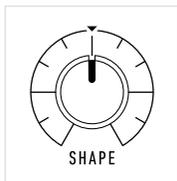
Tip : MOODノブをフェイザーポジションに設定し、DEPTHノブとMIXノブを中間あたりの位置にします。次に、DEPTHノブを最小から最大まで徐々に上げてから中央に戻し、MIXノブで同じ操作を繰り返します。各コントロールがエフェクト全体の強さにどのような影響を与えるかを確認できるでしょう。

11 概要

SHAPEとSWIRLノブ

上級編：

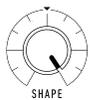
SHAPEノブとSWIRLノブ



SHAPE コントロールを使用して、低周波モジュレーターの波形を調整します。

ほとんどのエフェクトでは、コントロールを12時の位置に設定すると、選択したトーンに対応するクラシックな波形、つまり三角波とサイン波が完璧にブレンドされた波形が得られます。左に回すとより鋭い変化、右に回すと滑らかな効果になります。

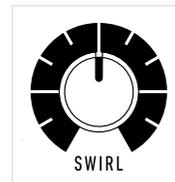
これは、サイン波に対して適用される矩形波のパルス幅を調整するようなものです。



Tip : ハーモニック・トレモロモードでは、MIXノブを中央に設定するとハーモニック・トレモロ効果が得られます。最大ポジションに設定すると、標準的なトレモロのような振幅の大きな激しいモジュレーションが得られます。



Tip : コーラス&ビブラートMOODでは、MIXノブを12時の位置に設定すると、ドライ信号とウェット信号が均等にブレンドされたクラシックなアナログ・コーラス効果が得られます。MIXノブを右に振り切ると、ピッチ・シフトされた信号のみが通過し、フル・ビブラートエフェクトが得られます。



ELIPSEの秘密兵器、セカンド・エフェクト回路を解放して！

SWIRLはメインエフェクトにセカンダリー・レイヤーを追加します。ノブの中央より左側の範囲ではスロー・フェイザーが導入され、右側の範囲ではドライブ効果が追加されます。

SLOW PHASER



DRIVE

ELIPSEには、特別に開発されたスロー・フェイザーを搭載した2つ目のモジュレーション回路が搭載されており、SWIRLノブでコントロールできます。これにより、あらゆるメインのエフェクトにフェイザーを重ねることができます。

SWIRLノブの前半部分はフェイザーの強さをコントロールします：最小値では効果がなく、中間値ではフェイザーの強さが最大になります。



注意： この特別なフェイザーのスピードは調整できませんが、どのメインモジュレーション・エフェクトともシームレスにブレンドできるよう慎重に調整されています。

SWIRLノブのレンジの後半は、RIDGEにヒントを得たドライブ回路を採用しています。この機能により、モジュレーション・エフェクトの後にドライブを加えることができ、ドライブ・ペダルをモジュレーションの前に配置するクラシックなペダルボードのセットアップを補完します。

SWIRLノブを中間点以上に回すと、ドライブの強さが増し、すべてのエフェクトに適用されます。



Tip : それぞれのエフェクトを切り離す方法：

1. すべてのノブを最小に設定し、クリーンでエフェクトのかかっていない、ダイレクト・サウンドのみの信号設定にします。
2. SWIRLノブを中央に合わせると、スロー・フェイザー効果だけが聞こえます。
3. SWIRLノブを最大に回すと、RIDGEに由来するドライブ回路だけが再生されます。

PRESET EXAMPLE FOR EACH OF THE MODULATION EFFECTS



TREMOLO "BROKEN DREAM"



ROTARY "BLACK HOLE SUN"



CLASSIC ANALOG CHORUS



FLANGER "KRAVITZ"



SMOOTH 2 STAGE PHASER



PSYCHEDELIC VIBE

E L I P S E
アドバンス機能

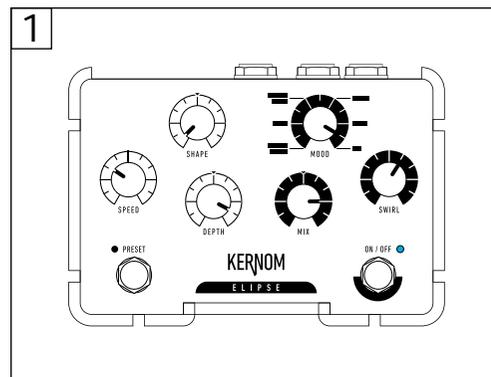
14 アドバンス機能

内部プリセットの保存と呼び出し1/2

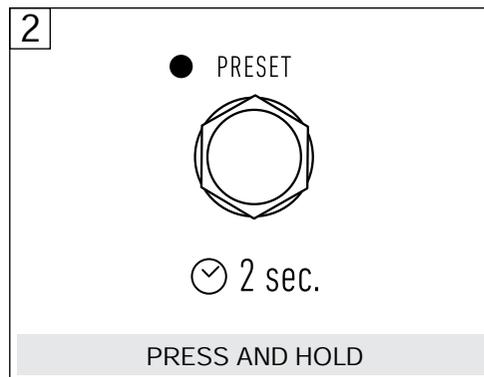
内部プリセットの保存と呼び出し方法

ELIPSEでは、内部メモリに1つのプリセットを保存し、フットスイッチでいつでも呼び出すことができます。

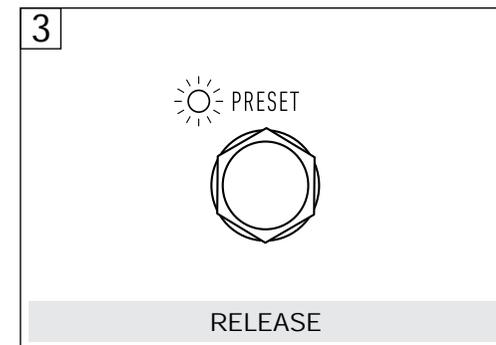
以下の手順に従って、すべてのノブの設定を「内部プリセット」として保存してください。



お好みの音色になるよう調整してください。

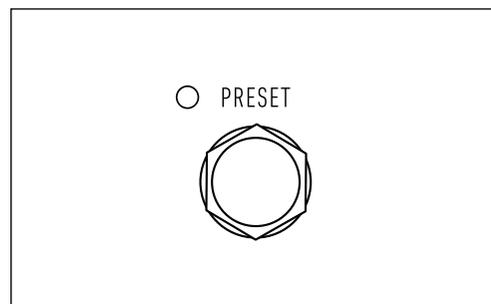


PRESETフットスイッチを2秒間押し続けて現在の設定を保存してください。



PRESETのLEDが白く点滅したらPRESETフットスイッチを離します。これでプリセットが保存されます。

PRESETフットスイッチを押せばいつでもプリセットを呼び出すことができます。



PRESETフットスイッチを押して、保存したプリセットを呼び出してください。
複数回押すと、お気に入りのプリセットとノブの現在の位置の設定を切り替えることができます。

注意: お気に入りプリセットを呼び出した後、ノブの実際の位置は、現在聞こえているエフェクトのパラメーター値と一致なくなることがあります。保存できる内部プリセットは1つのみです。新しい内部プリセットを保存すると、以前に保存したすべてのノブ設定は上書きされます。

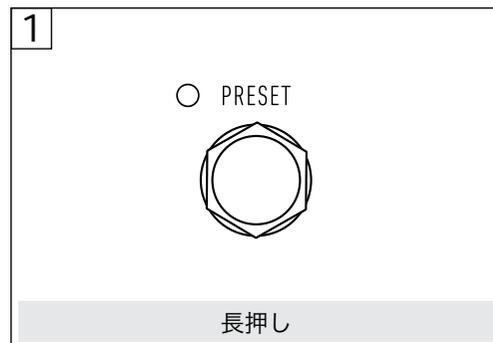
15 アドバンス機能

内部プリセットの保存と呼び出し 2/2

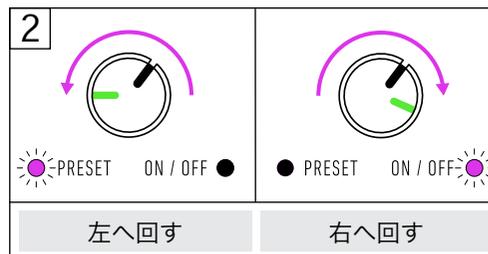
内部プリセットの変更と保存

内部プリセットプリセットを呼び出し、設定の一部を変更したい場合

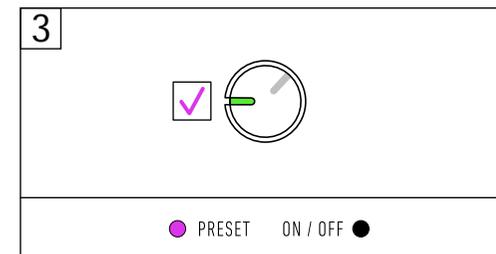
例えば、プリセットの全体的なトーンはそのままです。スピードノブの値だけを調整したい場合には、以下の手順に従ってください：



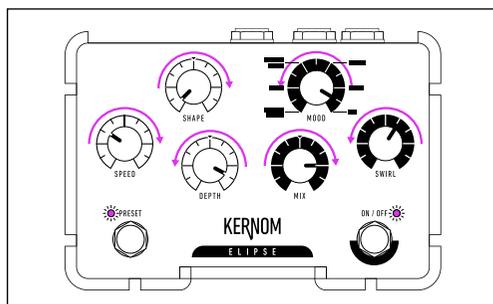
PRESETフットスイッチを踏んでプリセットを呼び出します。PRESETのLEDが白く点灯します。



変更したいノブを動かしてください。保存された値に達するまではサウンドに変化はありません。
LED表示: PRESETのLEDが紫色に点滅していれば左に、ON/OFFのLEDが紫色に点滅していれば右に回してください。



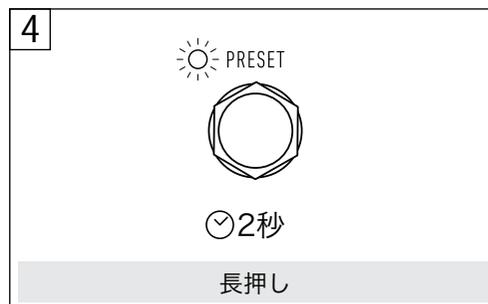
保存されたノブの位置に達するとLEDの点滅が止まり、PRESET LEDが紫色に点灯します。これでノブは再びアクティブになり、新しい設定に調整することができます。



ステップ2と3を、変更したいノブの数だけ繰り返してください。
6つのノブすべてを行うと、すべてのノブがアクティブになりプリセットから解除されます。

注意: 行った変更は実際に聞こえる音のみに影響しているだけで、その時点では保存されたプリセット上のノブの値は変更されていません。

変更をプリセットメモリに保存したい場合は、次のステップ4を実行してください。



変更が完了したら、PRESETのLEDが2秒間白く点滅し始めるまでPRESET・フットスイッチを長押ししてプリセットを保存します。

注意: アクティブにして変更したノブだけが更新されます。ステップ1～3の手順でアクティブにしなかったノブについては、以前の値のまま変更されません。

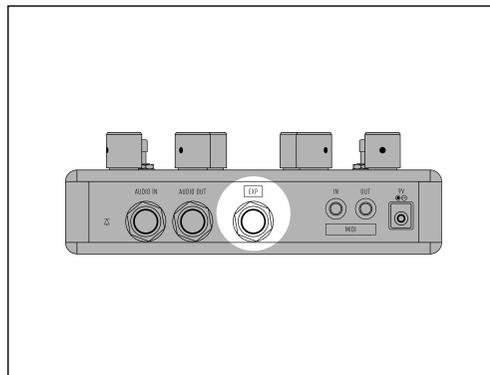
ヒント: プリセットのノブ位置を確認しただけの場合、ノブをゆっくり回して紫色のLEDが点滅から点灯へ変わったらずに回すのを止めてください。

ELIPSEでエクスペッション・ペダルを使用する方法

エクスペッション・ペダルを使用すると、まるで6つのノブを同時に回しているかのように2つの異なるセッティング間をモーフィングさせることができます。

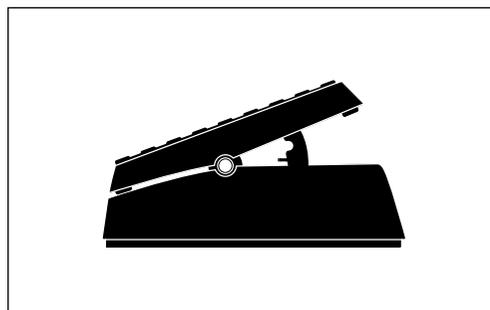
エクスペッション・ペダルは、ヒールポジションでは現在のノブの位置のサウンド、トゥポジションでは内部プリセットの設定値のサウンドとなり、踏み込みとその設定の間でモーフィングします。

エクスペッション・ペダルを使用するには、次の手順に従ってください。



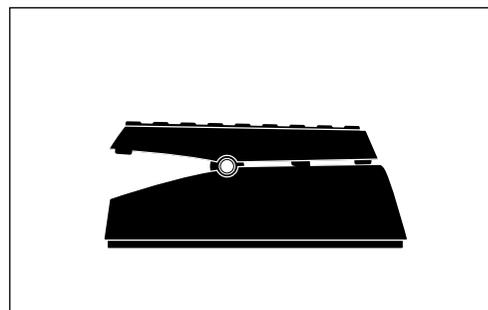
エクスペッション・ペダルをEXP端子に接続してください。

ヒールポジション



現在のノブの位置の値

トゥポジション



内部プリセットの値



ヒント: エクスペッション・ペダルでロータリースピーカーのスピードをコントロールするには、MOODコントロールをROTARYポジションに設定し、気に入った速いロータリーサウンドになるようにノブを調整して14ページの手順に従って内部プリセットに保存してください。その後、SPEEDノブを遅いスピードに設定します。これで、エクスペッション・ペダルをヒールからトゥへ動かすと、ロータリーサウンドのスピードを切り替えることができます。



注意: 内部プリセットがアクティブでPRESET LEDが点灯している場合、エクスペッション・ペダルは無効になります。



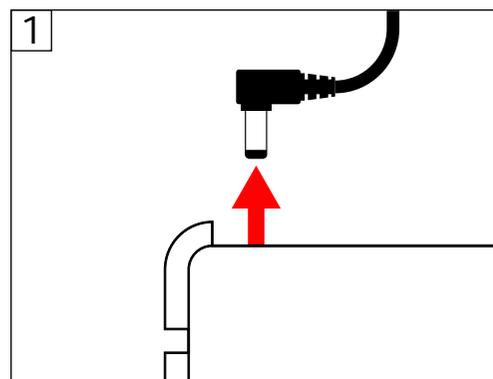
注意: ノブの変更が反映されない場合は、エクスペッション・ペダルが接続されていてトゥポジションにあるかどうかを確認してください。

ファクトリーリセット

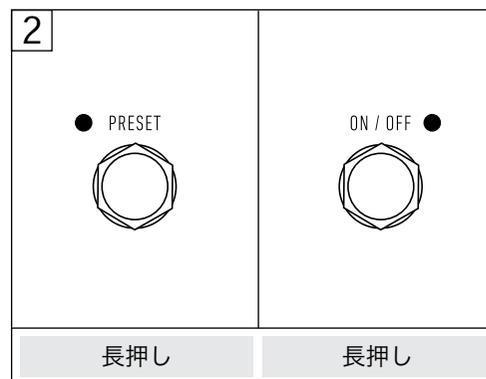
ELIPSEを工場出荷時の設定にリセットすることができます。

これにより、ユーザーが作成したすべてのプリセットが消去され、すべての動作モード(MIDI OUT/THRU、MIDIチャンネル、入力レベルなど)がデフォルト設定に戻ります。

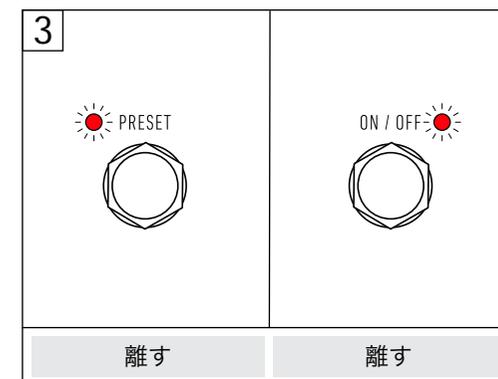
工場出荷時の設定にリセットするには、以下の手順1~6を実行してください。



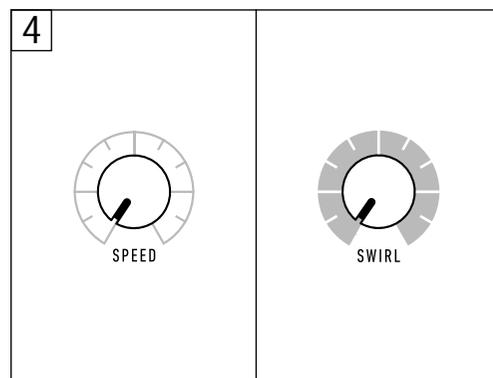
電源プラグを抜いて電源をOFFにしてください。



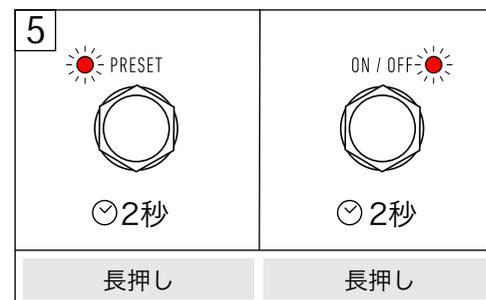
両方のフットスイッチを押しながら電源プラグを再接続します。



両方のLEDが赤くゆっくり点滅し始めたら両方のフットスイッチを離してください。



SPEEDとSWIRLを最小に設定してください。両方のLEDが赤く速く点滅し始めます。



両方のフットスイッチを長押しして両方のLEDが消えるのを確認してください。これで、ペダルは出荷時の状態にリセットされます。



ヒント: リセットモードに誤って入ってしまい工場出荷時の設定にリセットせずに手順を終了したい場合は、ペダルの電源を抜くか、手順4の段階でSWIRLとSPEEDのノブを最小以外の位置に設定して手順を終了してください。

KERNOM 18 アドバンス機能 フットスイッチモード

フットスイッチの動作モードを変更する方法

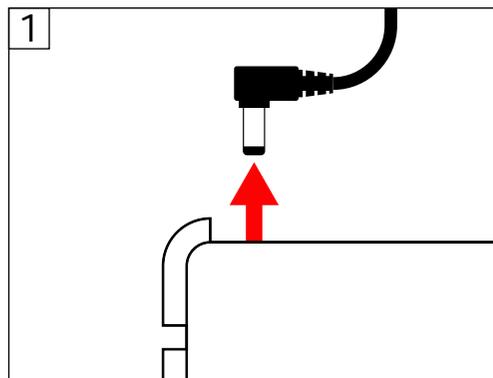
デフォルトでは、ELIPSEのフットスイッチは押したときではなく、離れた時にアクションを起こします。

この動作により、フットスイッチは押している時間に基づいて異なるアクションを実行できます。短く押すとプリセットが呼び出され、長く押す(2秒以上)とプリセットが保存されます。しかし、ライブの状況では、フットスイッチを押した瞬間にアクションが引き起こされる、より反応の速い動作が好まれる場合もあります。

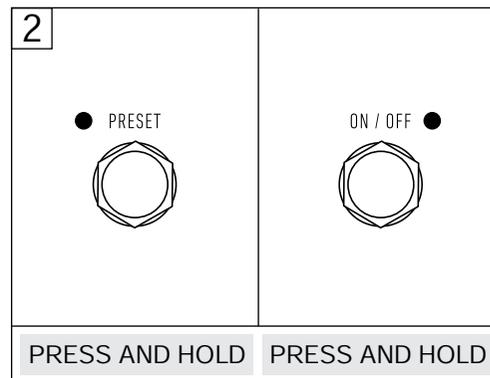
これは「リアクティブモード」で有効にすることができます。このモードではフットスイッチが1回押されるごとに1つのアクションのみを実行できるようになります(このモードではプリセットの呼び出しのみが可能です)。ELIPSEでは、フットスイッチの2つのモードから選択することができます。

デフォルトの「スタンダードモード」ではフットスイッチはリリースアクションで動作し、プリセット保存機能を有効にすることができます。「リアクティブモード」ではフットスイッチは押した時にアクティブになりますが、プリセット保存機能は無効になります。

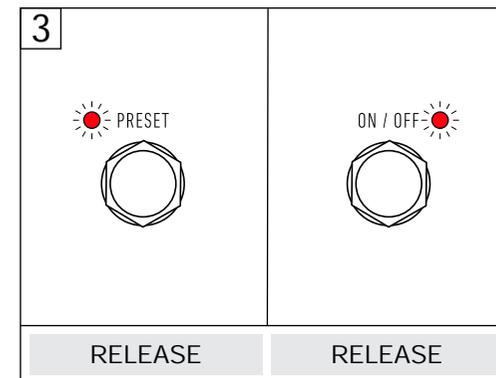
スタンダードモードからリアクティブモードに切り替えるには、次の手順に従ってください:



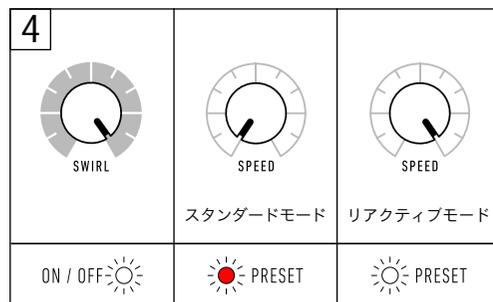
電源プラグを抜いて電源をOFFにしてください。



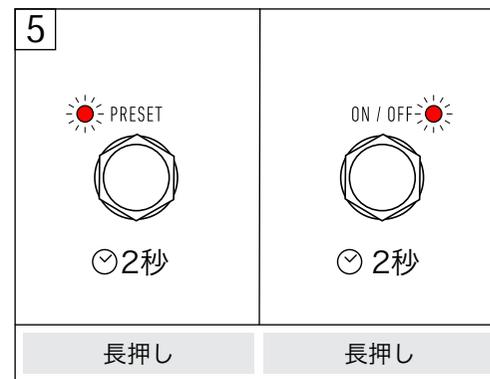
両方のフットスイッチを押しながら電源プラグを再接続します。



両方のLEDが赤くゆっくり点滅し始めたら両方のフットスイッチを離してください。



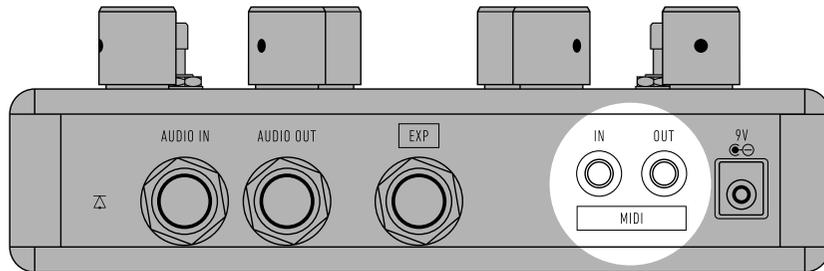
SWIRLを最大に設定してください。ON/OFFのLEDが白く点滅し始めます。その後、SPEEDノブを使用してスタンダードモード (最小設定、赤いLED)からリアクティブモード(最大設定、白いLED)を選択できます。



両方のフットスイッチを長押しして両方のLEDが消えるのを確認してください。

E L I P S E
MIDI機能

MIDI機能の紹介



MIDI (Musical Instrument Digital Interface)とは、電子楽器やコンピューターなどの機器を相互に通信・制御するための技術規格です。

これにより、ELIPSE内部テクノロジーのあらゆる可能性をさらに活用することができます：

MIDIでは最大128個のプリセットにアクセスでき、外部MIDIスイッチャーを使用してプログラムチェンジ(PC)メッセージで呼び出すことができます。

これはあらゆる種類のモジュレーションをカバーするのに十分な機能です(23、24 ページ参照)。

コントロールチェンジ(CC)メッセージを使用すると、接続した MIDI コントローラーで ELIPSE のすべての内部設定をコントロールできます(34ページ参照)。

MIDIはタップテンポ(35ページ)、MIDIクロック(36ページ)、タイム・サブディビジョン機能(37ページ)へのアクセスにも使用できます。



注意：プリセットナンバー0は内部プリセットです。

9ページまたは14ページのどちらの手順でも保存できます。"

MIDIチャンネルの設定方法

MIDIはデバイスが他のデバイスに情報を送信し、その設定やエフェクト値をリモートで変更することを可能にします。16の異なるチャンネルのやりとりをサポートしています。

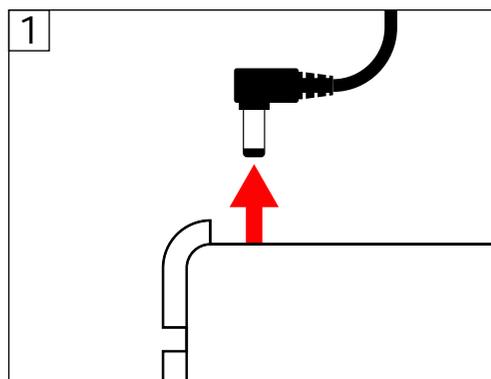
複数のMIDI対応ペダルがあるセットアップでは、各ペダルは固有のMIDIチャンネルに設定し、他のデバイスからの干渉を防いで、そのペダルが意図するメッセージだけを受信できるようにする必要があります。

工場出荷時の状態はELIPSEはMIDIチャンネル1で機能するように設定されています。

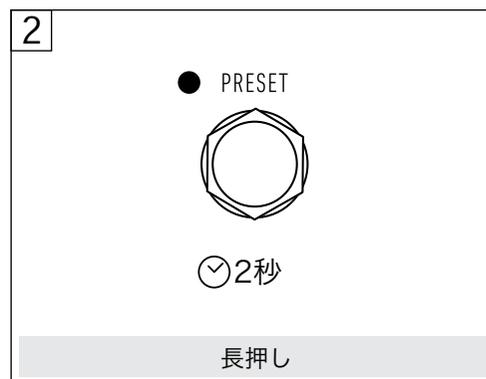
次の手順に従って、ELIPSEに割り当てられたMIDIチャンネルを変更します。

注意：使用するMIDIスイッチャーとELIPSEのMIDIチャンネルを同じにする必要があります。

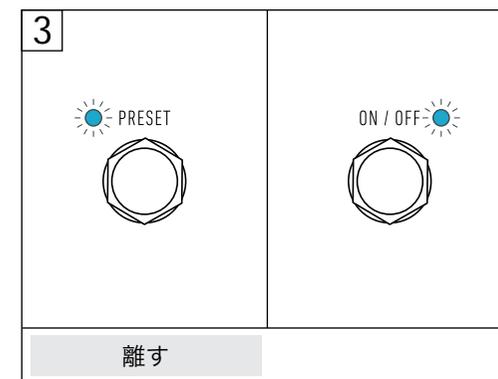
注意：最初の3つのMIDIチャンネルから1つを直接選択できます。チャンネル4～16の場合は、SWIRLノブを全範囲を4区分したうちの4番目のエリア(右図青色範囲)に合わせます。MIDIコントローラーを希望のMIDIチャンネルにアサインし、任意のMIDIメッセージを送信します。ELIPSEはそれを認識し、自動的にこのMIDIチャンネルを設定します。



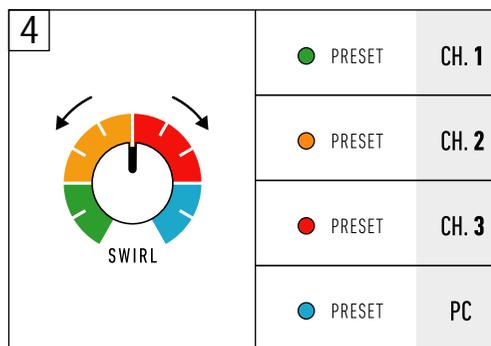
電源プラグを抜きます。



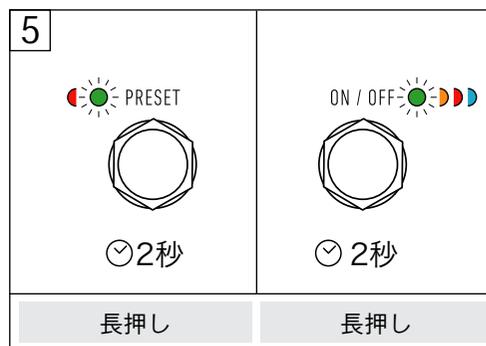
PRESETフットスイッチを押しながら電源プラグを再接続します。



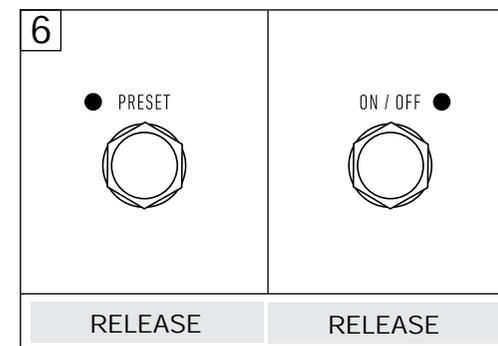
両方のLEDが青く点滅し始めます。PRESETフットスイッチを離します。



SWIRL ノブを回して最初の3つのチャンネルを選択するか、または受信したMIDIメッセージのMIDIチャンネルに合わせます。



両方のフットスイッチを長押しして確認します。両方のLEDがチャンネル選択に対応する色で点滅し始めます。



両方のフットスイッチを離して設定が完了です。再度変更するためには同じ操作を繰り返します。

MIDI出力の設定方法 コネクターモード：THRU/OUT

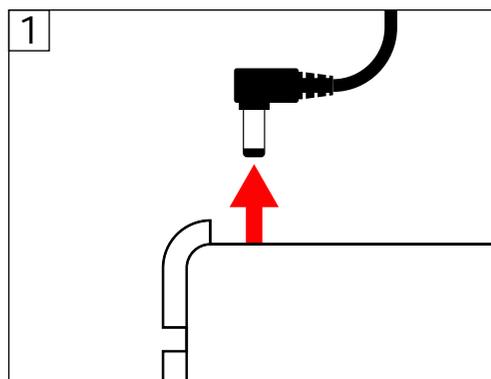
工場出荷時のELIPSEのMIDI OUTコネクターはMIDI THRUモードに設定されています。つまり、ペダルはMIDI IN端子から受信したMIDIメッセージとまったく同じ信号を送信します。これによりMIDI経由で複数のユニットをデジチェーン接続することができます。

ただし、ELIPSEはMIDIコントロールメッセージを出力することもできます。各ノブの実際の値をMIDI経由で送信することで、他のデバイスをコントロールしたり、DAWでノブの動きを記録したりすることができます。これはMIDI OUTモードで有効にすることができます。

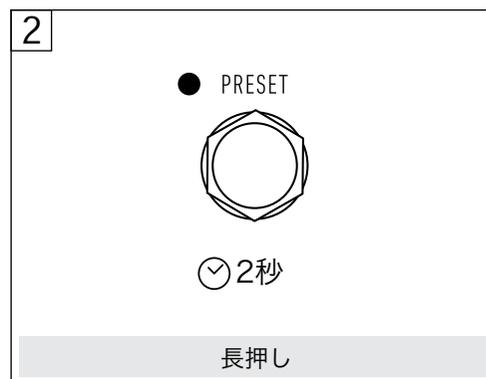
ELIPSEでは次の2つのモードを選択できます。

MIDI THRU : MIDI IN端子で受信したすべてのMIDIメッセージは、変更されることなくリアルタイムでMIDI OUT端子に送られます。ELIPSE上のノブは何もMIDIメッセージを送りません。

MIDI OUT : ノブを動かすたびに、対応するMIDIメッセージがMIDI OUT端子に送信されます。MIDI IN端子で受信したMIDIメッセージは送信されません。

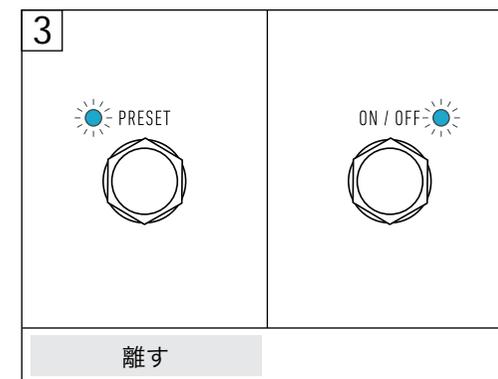


電源プラグを抜きます。



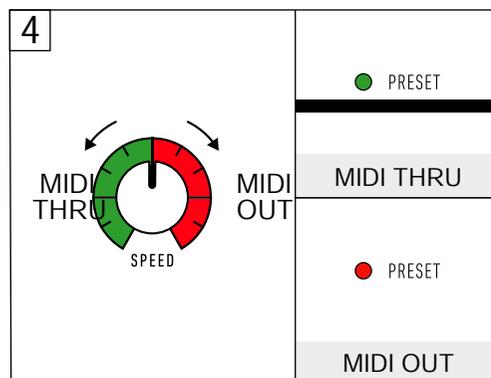
長押し

PRESETフットスイッチを押しながら再度電源プラグを接続します。



離す

両方のLEDが青く点滅し始めたらPRESETフットスイッチを離します。



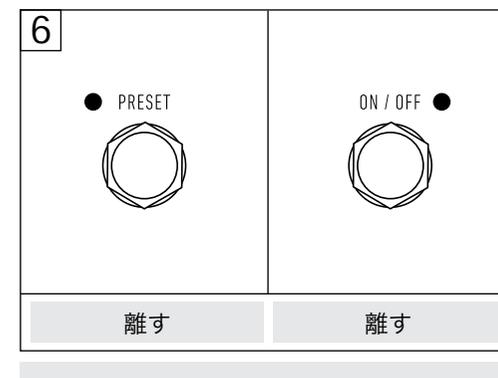
SPEEDノブを回してMIDI THRU または MIDI OUT を選択します。



長押し

長押し

両方のフットスイッチを押し続けて設定を確定させます。両方のLEDが選択した色(緑または赤)で点滅し始めます。



離す

離す

両方のフットスイッチを離して設定が完了です。再度変更するためには同じ操作を繰り返します。

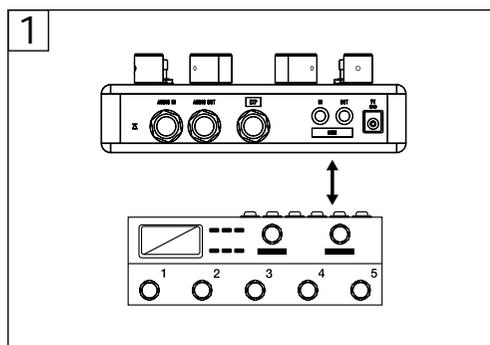
MIDIプリセットの保存方法

ELIPSEにはMIDI経由でアクセスできる128のプリセットがあります。
各プリセットはMIDIプログラムチェンジメッセージにリンクされています。
値の範囲は0~127です。

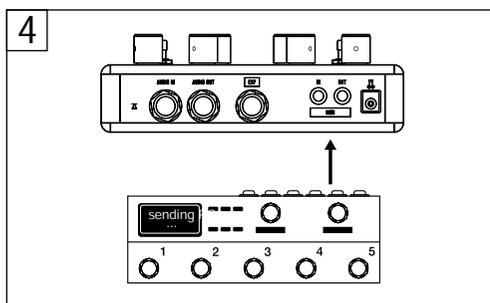
例えば、プリセット1はMIDIプログラムチェンジ1で、
プリセット2はMIDIプログラムチェンジ2でアクセスします。

次の手順に従ってノブの設定値をMIDIプリセットスロットの1つに保存し、それを呼び出します。

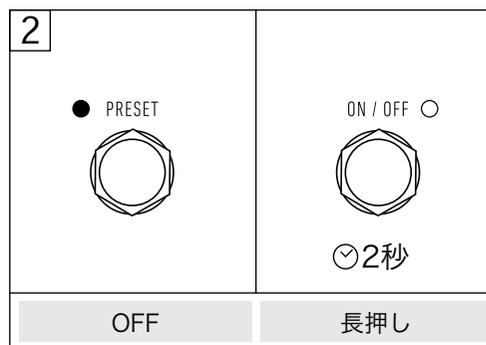
注意：デバイスやソフトウェアによっては0~127までのラベリングでプリセットを呼び出すものもあれば、1から128までのラベリングでプリセットを呼び出すものもあります。どちらの場合も、最も小さい数字(0または1)をそれぞれ内部プリセットに使用します。



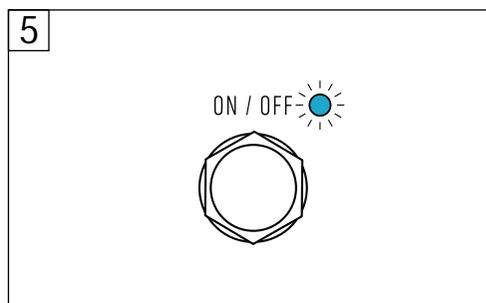
MIDIプログラムチェンジメッセージを送信できる外部機器からELIPSEのMIDI IN端子に接続します。



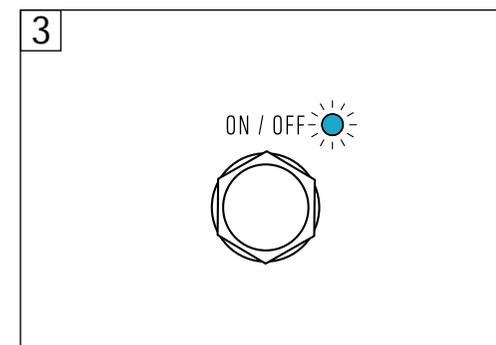
外部機器から任意のMIDIプログラムチェンジ(PC 0~127)を送信します。
正しいMIDIチャンネルが設定されていることをご確認ください(21ページ参照)。



PRESETのLEDが消灯していてプリセットモードではないことを確認してください。
ON/OFFフットスイッチを長押しします。



ON/OFF LEDが青く素早く点滅し、メッセージの受信を確認します。
保存が完了しペダルは元の状態に戻ります。



ON/OFF LEDがゆっくりと青く点滅し始めたなら外部MIDIプログラムチェンジメッセージが送信されるのを待ちます。



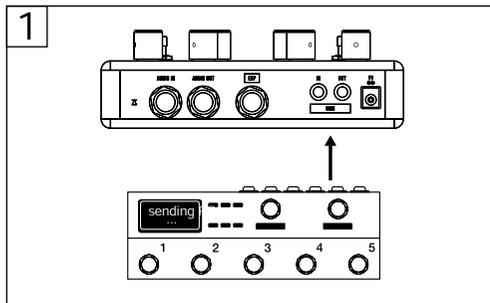
ヒント：手順3の途中でプリセットを保存せずに離脱したい場合、メッセージを送信せずにON/OFFフットスイッチを長押し続けるとペダルは前の状態に戻ります。



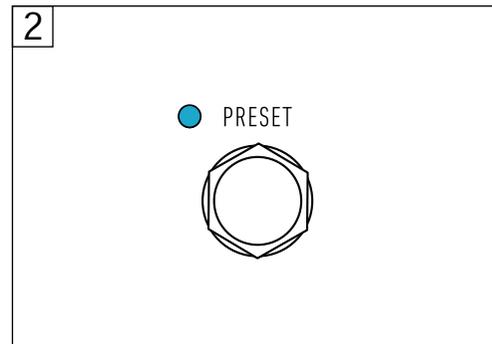
ヒント：内部プリセットにはMIDIプログラムチェンジNo.0でアクセスすることができます。
このプリセットには14ページで説明した手順で直接アクセスすることもできます。

MIDIプリセットを呼び出すには？

特定のMIDIプリセットを呼び出すには、ユーザーは外部デバイスからELIPSEにプログラムチェンジメッセージを送信するだけでペダルが自動的にONになり、指定されたプリセット(PC 0~127)を呼び出します。



正しいMIDIチャンネルを使用していることを確認して外部機器から希望のMIDIプログラムチェンジ(PC 0~127)を送信します(21ページ参照)。



PRESET LEDが青く点灯し、メッセージの受信とプリセットのロードを知らせます。

注意: プログラムチェジナンバー0は内部プリセットに割り当てられています。PC 0を送信した場合、PRESETのLEDは青ではなく白に点灯します



ELIPSEには、このペダルで実現できる幅広いトーンを紹介するための10種類のプリセットが用意されています。

これらのプリセットはMIDI プログラムチェンジ(1~10)で瞬時に呼び出すことができます。

自身で編集したプリセットをスロット1~10に保存すると、内部プリセットが上書きされます。

PC1 — Harmonic Tremolo

PC2 — Full Tremolo

PC3 — Fast Rotary

PC4 — Classic Analog Chorus

PC5 — Wide Tri Chorus

PC6 — Jet Flanger

PC7 — 90 Degrees Phaser

PC8 — 60' s Vibe

PC9 — Phaser Madness

PC10 — Full Vibrato

MIDIプリセットを修正して同じプリセットに保存するには？

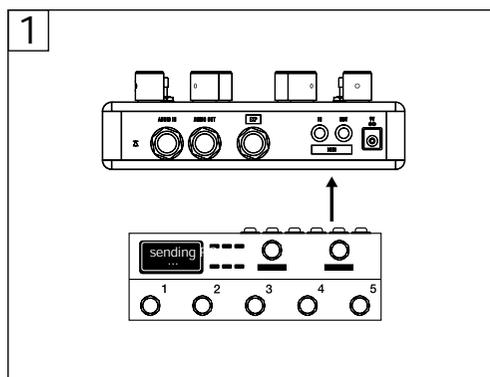
MIDIプリセットを呼び出してノブの設定を変更したい場合があります。

例えば、プリセットのグローバル・トーンはそのままに、スピード・ノブの値だけを調整したい場合。

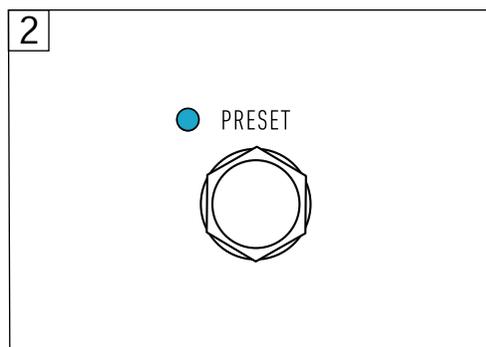
そのためには次の手順に従ってください。



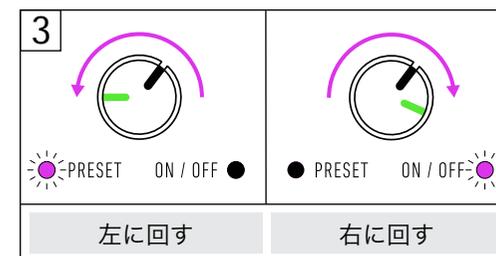
ヒント：プリセットのノブの設定位置だけを知りたい場合は、ノブをゆっくりと回して紫色のLEDが点滅を止めて点灯したままになったらそのポジションがプリセットでの設定位置ですので、ノブを回すのを止めてください。



1 MIDIコントローラーからMIDI プログラムチェンジを送信してMIDI PRESETを呼び出します。



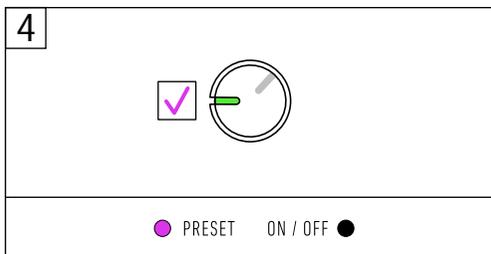
2 PRESET LEDが青く点灯し、メッセージの受信とプリセットのロードを示します。



3 変更したいノブを動かします。

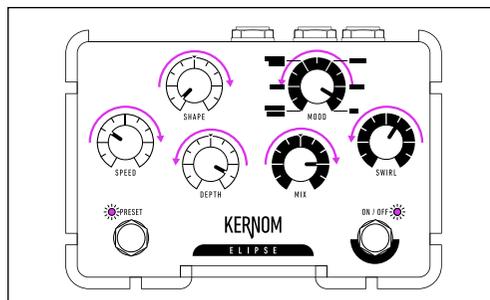
保存された値に達するまで、聴こえる音には反映されません。

LEDの点灯が目印です：PRESET LED が紫色に点滅している場合は左へ、ON/OFF LEDが紫色に点滅している場合は右へ回します。



4 保存されたノブの位置に達するとLEDの点滅が止まり、PRESET LEDが紫色に点灯してプリセットが変更されたことを示します。

ノブは再びアクティブになり、新しい設定にダイヤルすることができます。

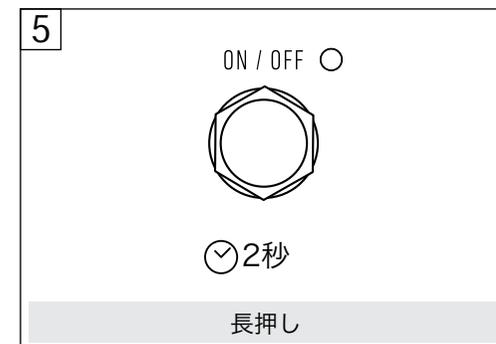


5 ステップ2と3を好きなだけ繰り返して下さい。6つすべてのノブでこの手順を繰り返すとペダルはプリセットから外れ、ノブはすべてアクティブになります。



注意：変更した内容は聴こえる音に影響するだけで、プリセットメモリーに保存されているノブの値はその時点では変更されません。

変更をプリセットに保存したい場合次のステップに従ってください：

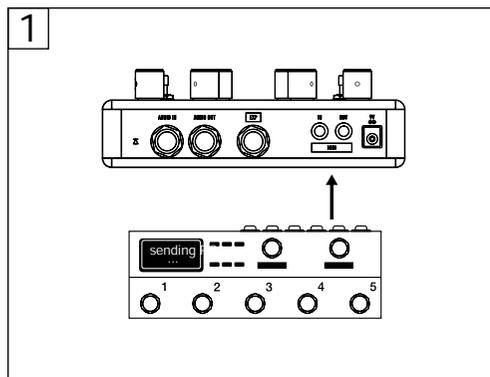


サウンドに満足したら、ON/OFFフットスイッチを長押しすると、新しい設定が同じスロットに保存されます。

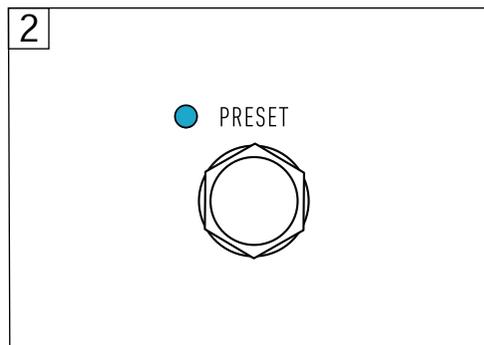
任意のMIDIプリセットを内部プリセットに保存できますか？

呼び出したMIDIプリセットを内部プリセットスロットに保存したい場合があります。演奏時にMIDIデバイスを使用せず、プリセットが1つだけ必要な場合などです。

次の手順で任意のMIDIプリセットを内部プリセットに保存します。



MIDIコントローラーからMIDI プログラムチェンジを送信してMIDIプリセットを呼び出します。

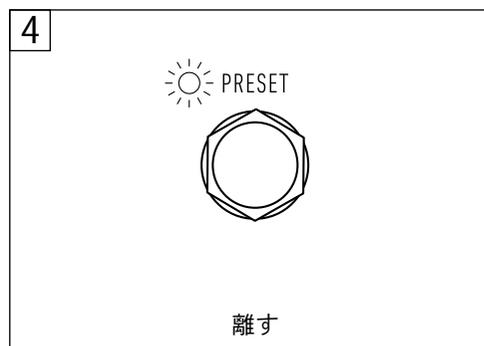


PRESET LEDは青色に点灯してメッセージの受信とプリセットの読み込みを示します。



長押し

PRESETフットスイッチを長押しして、新しい設定を内部プリセットスロット*に保存します。



離す

PRESET LEDが白く点滅し始めたならPRESETフットスイッチを離します。これでプリセットが保存されました。

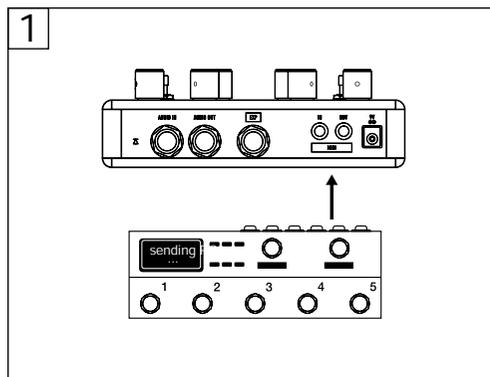
 ***注意：**MIDI プログラムチェンジを受信すると、PRESET LEDが青色に点灯します。

 **ヒント：**MIDIプリセットの値を変更してから内部プリセットに保存したい場合は、27ページの手順に従ってください。

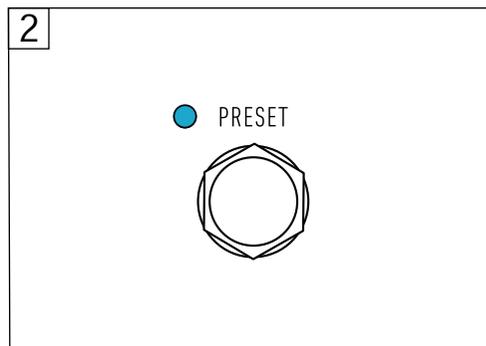
MIDIプリセットを変更した後に内部プリセットに保存するには？

MIDIプリセットを呼び出すには、ノブの値をいくつか変更し お気に入りのプリセットに保存します。

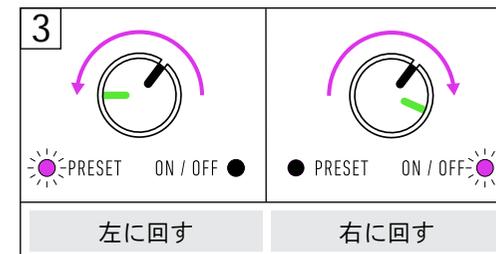
次のステップに進んでください：



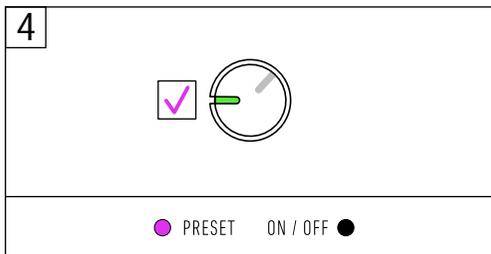
MIDIコントローラーからMIDIプログラムチェンジを送信してMIDIプリセットを呼び出します。



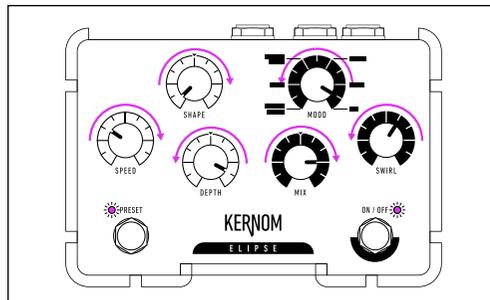
PRESET LEDが青く点灯し、メッセージの受信とロードを示します。



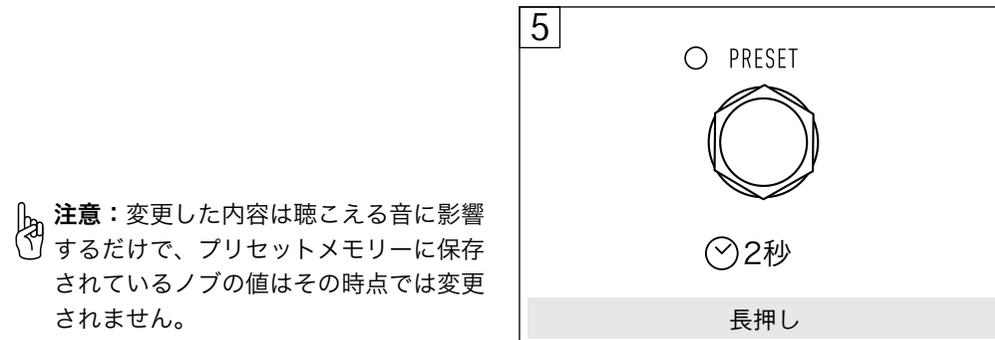
変更したいノブを動かします。
保存された値に達するまで、聴こえる音には変化はありません。
LEDの点灯が目印です：PRESET LED が紫色に点滅している場合は左へ、ON/OFF LEDが紫色に点滅している場合は右へ回します。



保存されたノブの位置に達するとLEDの点滅が止まり、PRESET LEDが紫色に点灯してプリセットが変更されたことを示します。
ノブは再びアクティブになり、新しい設定にダイヤルすることができます。



ステップ2と3を好きなだけ繰り返して下さい。
6つすべてのノブでこの手順を繰り返すとペダルはプリセットから外れ、ノブはすべてアクティブになります。



注意：変更した内容は聴こえる音に影響するだけで、プリセットメモリーに保存されているノブの値はその時点では変更されません。

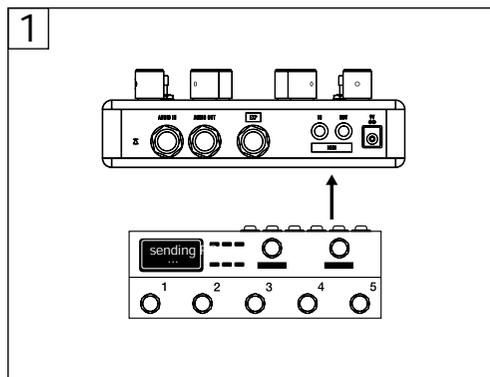
変更をお気に入りプリセットメモリーに保存したい場合は、次の手順に従ってください：

サウンドに満足したら、ON/OFFフットスイッチを長押しすることで新しい設定が同じスロットに保存されます

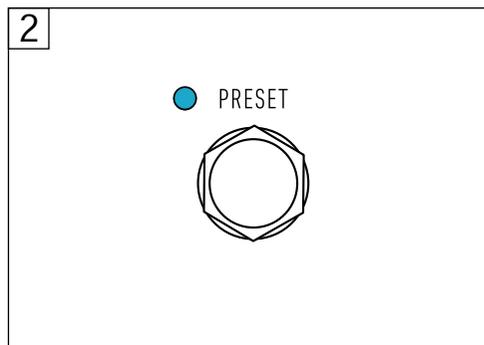
MIDIプリセットを別のMIDIプリセットに保存するには？

任意のプリセットを別のプリセットスロットに保存したい場合があります。

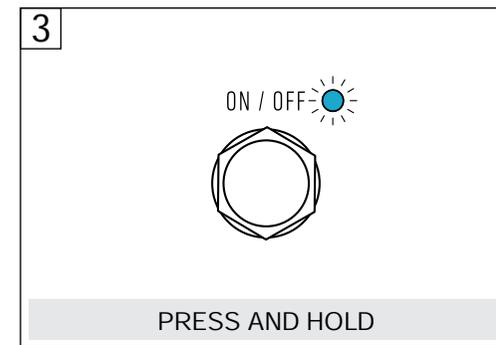
次の手順に従って、正しい MIDI チャンネルを使用していることを確認してください(21 ページ参照)：



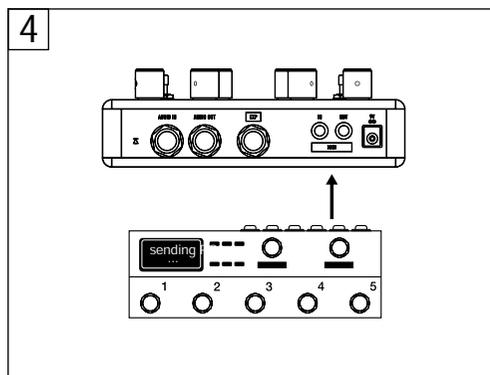
MIDIコントローラーからMIDIプログラムチェンジを送信してMIDIプリセットを呼び出します。



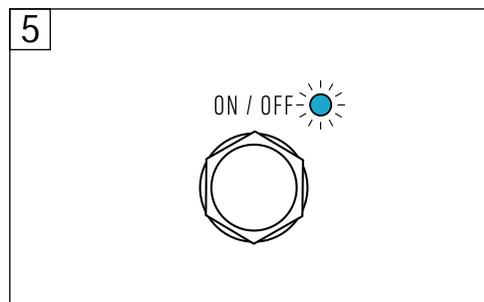
PRESET LEDが青く点灯し、メッセージの受信とプリセットのロードを示します。



ON/OFFフットスイッチを長押しすると、MIDIプログラムチェンジメッセージの待機モードになりLEDが青く点滅し始めます。



外部機器からMIDIプログラムチェンジを送信します。



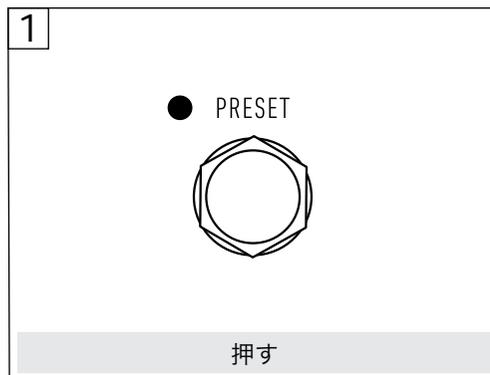
ON/OFF LEDが青く素早く点滅し、メッセージの受信を確認します。
保存が完了しペダルは元の状態に戻ります。

注意：MIDI プリセットを変更し、その変更を他の MIDI プリセットスロットに直接保存することはできません。
これを行うには、まず変更するプリセットをターゲットスロットに保存し、25ページの手順に従って変更を加え再度保存します。

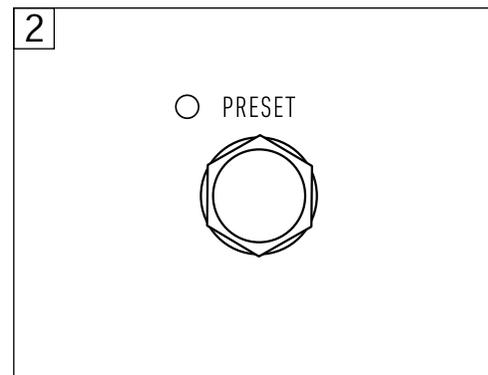
内部プリセットをMIDIプリセットに保存する方法は？

内部プリセットをMIDIプリセットスロットに保存することもできます。

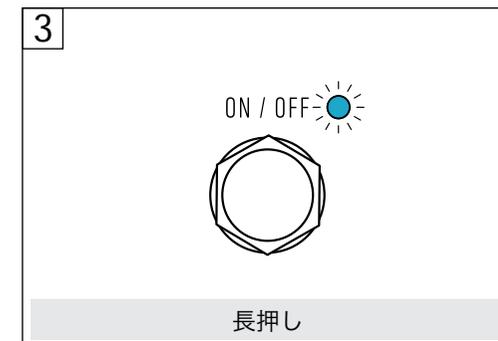
次の手順で、内部プリセットを MIDI プリセットスロットに保存します：



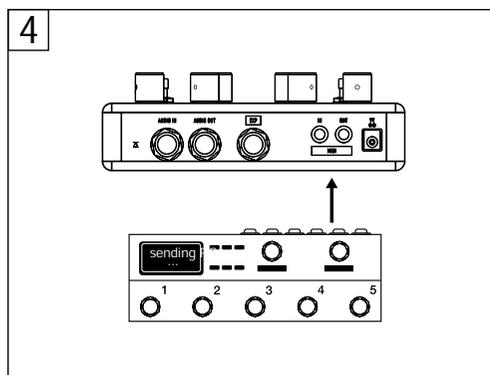
PRESETフットスイッチを押して、内部プリセットを呼び出します。



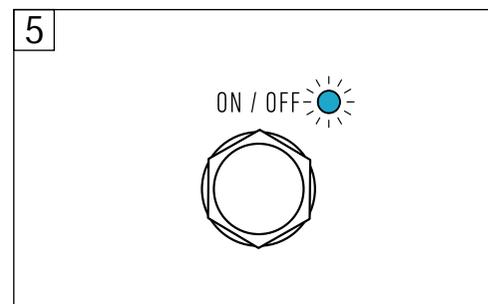
PRESET LEDが白色に点灯します。



ON/OFFフットスイッチを長押しすると、MIDIプログラムチェンジメッセージの待機モードになりLEDが青く点滅し始めます。



外部機器からMIDIプログラムチェンジを送信します。

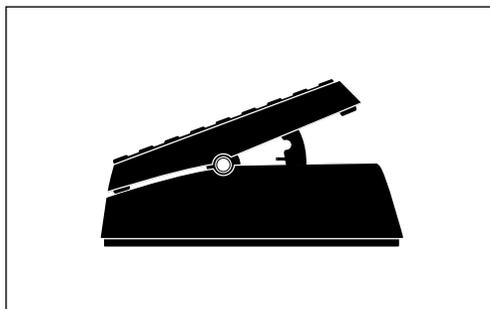


ON/OFF LEDが青く素早く点滅し、メッセージの受信を確認します。
保存が完了しペダルは元の状態に戻ります。

MIDIプリセットでエクスプレッションペダルを使用するには？

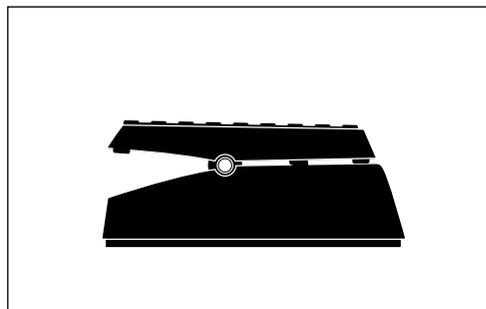
デフォルトでは、MIDIプリセットを呼び出してエクスプレッションペダルを使用する場合、ヒールポジションのノブの現在位置とトゥポジションのMIDIプリセットのノブ設定の間でモーフィングすることができます。

ヒールポジション



実際のノブの位置の値

トゥポジション



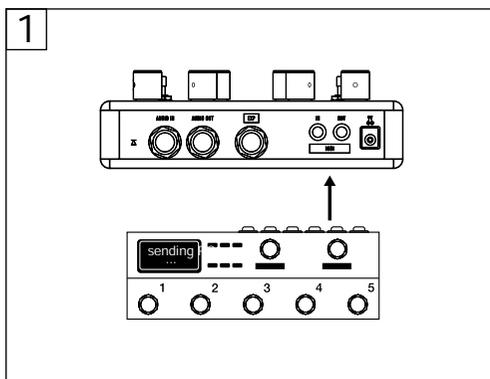
MIDIプリセットのノブの位置の値

しかし、各MIDIプリセットに対してヒールポジションとトゥポジションの異なる設定を保存することが可能で、各プリセットに2つのサブプリセットを作成することができます。

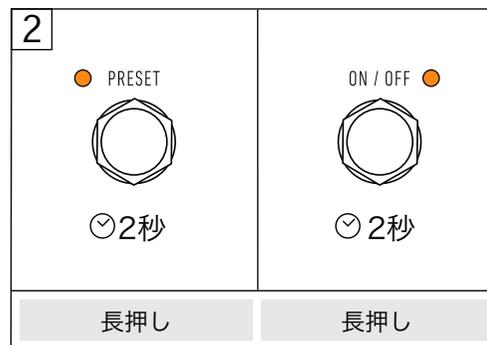
以下(1~4)は、MIDIプリセットのトゥポジションとヒールポジションを設定して保存するための手順です。

STEP 1

手順をスタートします



対応するプログラムチェンジを送信してMIDIプリセットを呼び出します



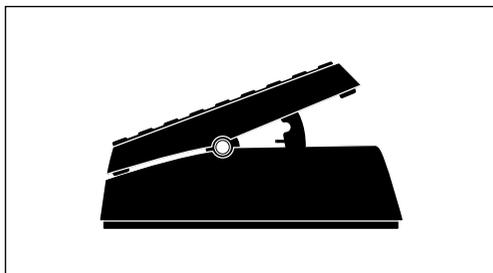
注意：MIDI プログラムチェンジを受信すると、PRESETのLEDが青(PC 0を送信した場合は白)に点灯します。

両方のフットスイッチを長押しして手順に入ります。両方のLEDがオレンジ色に点灯します。

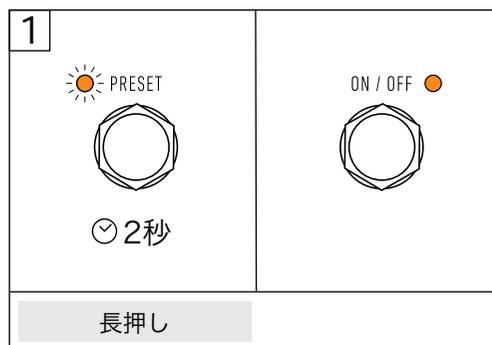
MIDIプリセットでエクスペッションペダルを使用するには？

STEP 2

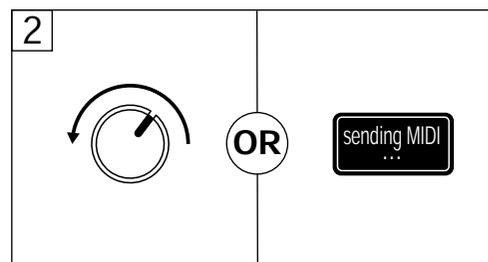
ヒールポジションの変更



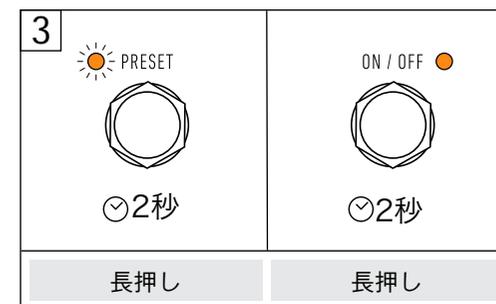
ヒール



PRESET フットスイッチを長押しすると、ON/OFF LEDはオレンジ色に点灯したまま PRESET LEDがゆっくりと点滅し始めます。

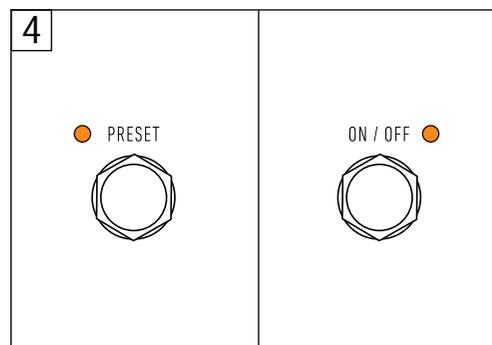


ヒールポジションをノブを回して設定するか、外部コントローラーからPCメッセージを送信して特定のプリセットをコピーし作成中のプリセットのヒールポジションとして設定します。



両方のフットスイッチを長押しして、ヒールポジションの値を保存します。

PRESET LEDは確認のために2秒間素早く点滅し、その後両方のLEDがオレンジ色に点灯します。



PRESET LEDの点滅が止まり、両方のLEDがオレンジ色に点灯してヒールポジションの設定が完了したことを示します。

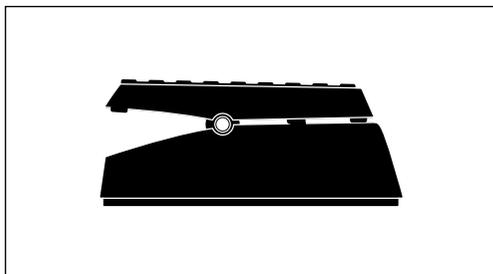


注意：ヒールポジションの変更手順を保存せずに終了したい場合は、PRESET フットスイッチを長押ししてください。

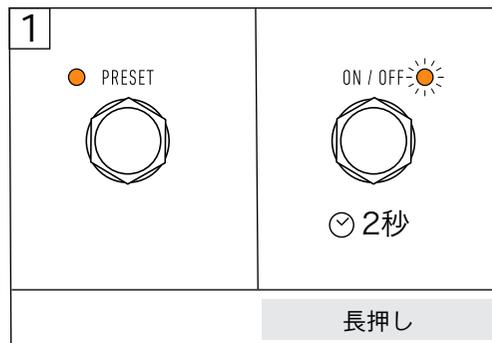
MIDIプリセットでエクスプレッションペダルを使用するには？

STEP 3

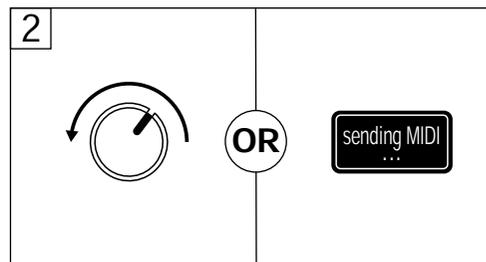
トウポジションの変更



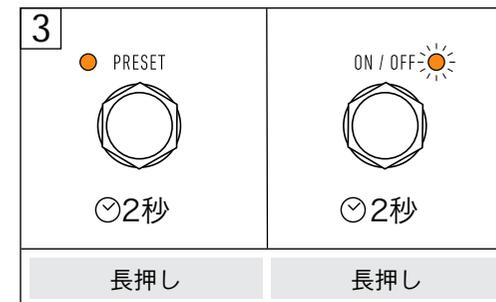
トウ



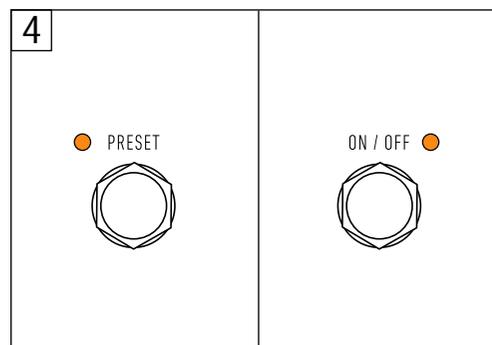
ON/OFFフットスイッチを長押しすると、PRESET LEDはオレンジ色に点灯したままON/OFF LEDがゆっくりと点滅し始めます。



トウポジションをノブを回して設定するか、外部コントローラーからPCメッセージを送信して特定のプリセットをコピーし作成中のプリセットのトウポジションとして設定します。



両方のフットスイッチを長押しして、トウポジションの値を保存します。ON/OFF LEDは確認のために2秒間素早く点滅し、その後両方のLEDがオレンジ色に点灯します。



PRESET LEDの点滅が止まり、両方のLEDがオレンジ色に点灯してトウポジションの設定が完了したことを示します。



注意：トウポジションの変更手順を保存せずに終了したい場合は、PRESETフットスイッチを長押ししてください。

MIDIプリセットでエクスペッションペダルを使用するには？

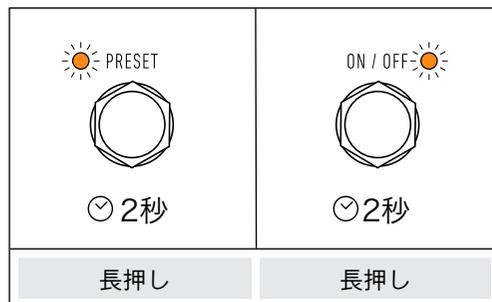
STEP 4

手順を検証して終了する。

グローバルポジション設定モードを終了してアクティブな状態に戻るには、次の手順に従ってください：



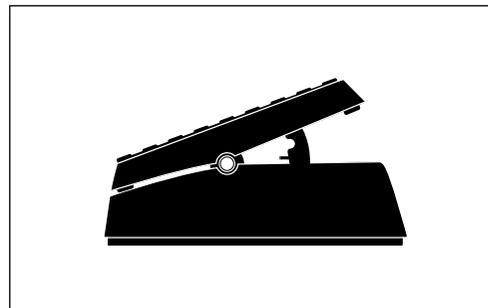
注意：手順を終了する前にステップ2と3は何度でも繰り返すことができます。



両方のLEDが2秒間素早く点滅して、その後LEDは手順開始前の設定に戻ります。

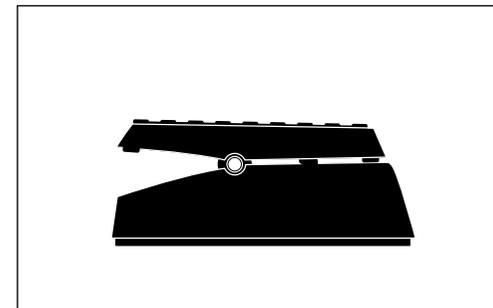
説明されている手順に従わないMIDIプリセットは、エクスペッション・ペダルのデフォルトの動作(ヒールポジション=現在のノブの値)を保持します。

ヒールポジション



MIDIプリセット ヒールポジション値

トゥポジション



MIDIプリセット トゥポジション値

以下は手順 1 ~ 4 を完了することで、設定した MIDI プリセットスロットに対してエクスペッション・ペダルがどのように動作するかを示しています：

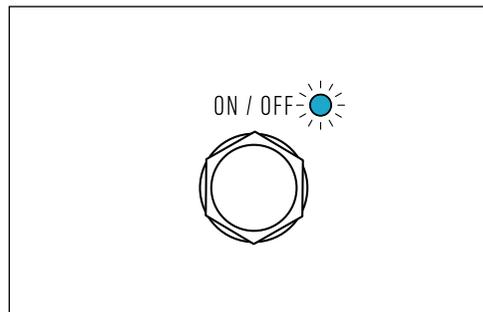
MIDIコントロールチェンジメッセージの使用方法は？

MIDIコントロールチェンジメッセージは、サウンドデバイスのパラメーターを外部コントロール機器からリモートで変更するために使用されます。

ELIPSEでは、MIDIスイッチャーやコンピューター内のDAWなどの他のMIDIデバイスからELIPSEのパラメーターをコントロールすることができます。

また、タップ・テンポを受信してテンポ・サブディビジョン(細分化)することも可能です。

ELIPSEのパラメーターはすべてMIDIコントロールチェンジ(CC)でリモートコントロールが可能で、逆にELIPSEのノブを動かして他のMIDIデバイスをコントロールすること



MIDIコントロールチェンジ(CC)がELIPSEに送信されると、ON/OFF LEDが青く点灯しペダルがMIDI機能を使用中であることを示します。

ELIPSEもMIDI OUTからMIDIコントロールチェンジ(CC)を送信し、外部機器をコントロールすることもできます。

その際、送信されるコントロールチェンジ(CC)メッセージの値は、常に各ノブの現在の値となります。

 **ヒント：**ELIPSEのパラメーター値は、関連するMIDIバリュー値を受信すると変更されます。ノブを再び動かすと、パラメーターはノブの実際の位置に再びジャンプします。

 **ヒント：**ELIPSEはノブのポジションの値をMIDIコントロールチェンジ(CC)メッセージとして出力することができます。これを有効にするには、22ページの手順に従ってELIPSEをMIDIアウトブットモードに設定してください。

MIDI CC ナンバー	ELIPSEパラメーター	最小値	最大値
CC 20	SHAPE	1	127
CC 21	MOOD	1	127
CC 22	SPEED	1	127
CC 23	DEPTH	1	127
CC 24	MIX	1	127
CC 25	SWIRL	1	127
CC 26	EXP	1	127
CC 27	フットスイッチ		
CC 28	フットスイッチON/OFF		
CC 85	タップテンポ		
CC 86	テンポ・サブディビジョン		

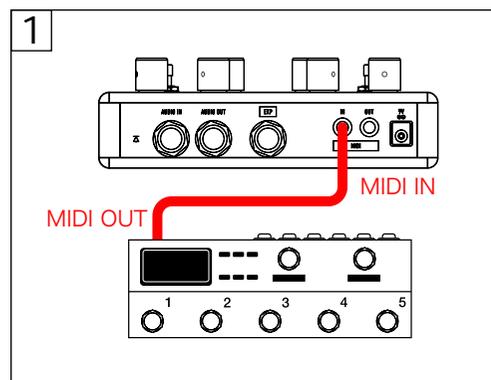
外部MIDIフットスイッチでタップテンポを使用するには？

タップ・テンポ機能を使えば、ディレイ、コーラス、トレモロなどのエフェクトのモジュレーション・スピードを、フットスイッチでテンポをタップすることで曲のリズムに同期させることができます。

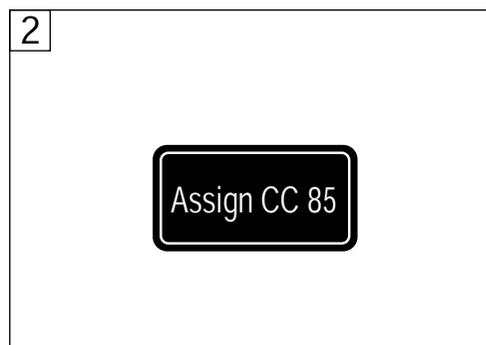
これにより、演奏のグループに合わせたリアルタイムの柔軟性が得られます。

ELIPSEにはMIDIインポートが装備されているため、**MIDIコントロールチェンジ85**を任意のフットスイッチにアサインすることで、MIDIスイッチャーのフットスイッチを使ってモジュレーションエフェクトのタップ・テンポをコントロールすることができます。

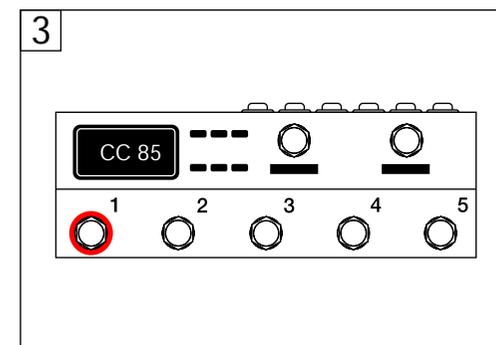
これにより、メインエフェクトのLFOのスピードを足で設定したテンポに同期させることができます。この機能を使用するには、ステップ1～3に従ってください：



フットスイッチをアサイン可能なMIDIスイッチャーをELIPSEのMIDIインポートに接続します。



MIDI スイッチャーの使用したいフットスイッチに MIDI コントロールチェンジ(CC)85 をアサインします。



このフットスイッチをリズムに合わせて2回以上タップすると、ELIPSEのLFOが自動的にテンポに同期します。

 **ヒント：**MIDIスイッチャーでテンポをタップしてLFOスピードを設定した場合、Speedノブの現在の値とLFOスピードは無関係になります。しかし、Speedノブを調整することでLFOスピードはノブの位置に合わせて即座に更新されます。

 **注意：**タップ・テンポ機能が反応しない場合は、次ページの手順でELIPSEのMIDIクロック同期設定を確認してください。

MIDIクロックの使い方は？

MIDIクロックは複数のMIDIデバイスを同期させるためのタイミングシグナルで、すべてのデバイスが同じテンポに従うことを保証します。

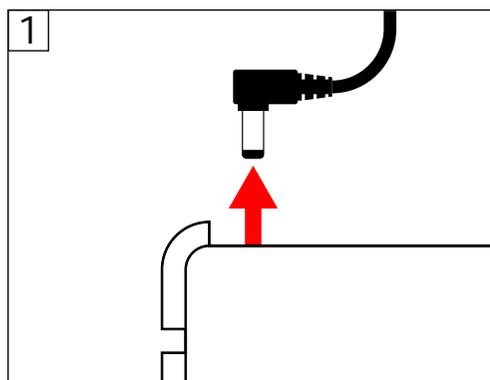
これは MIDI プロトコルの標準的な機能で、デバイス同士が通信し同期を保つことを可能にします。

ELIPSEはMIDIクロック機能を搭載しており、MIDIクロックマスターデバイスに同期させることができます。

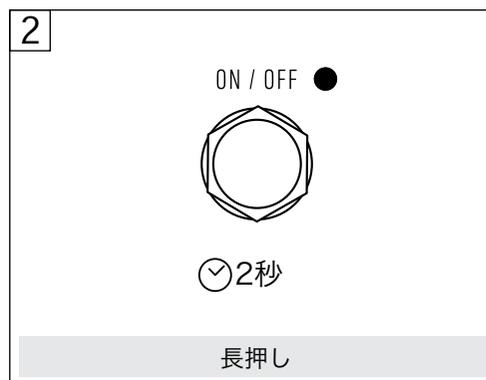
この機能を有効にするには、ELIPSEをMIDIクロックモードに設定する手順に従ってください。

タップ・テンポとMIDIクロックの両方を同時に有効にすることはできませんのでご注意ください。ELIPSEがタップ・テンポモードに設定されている場合、MIDIクロックメッセージは無視されます。ELIPSEがMIDIクロックモードに設定されている場合は、MIDIタップ・テンポメッセージは無視されます。

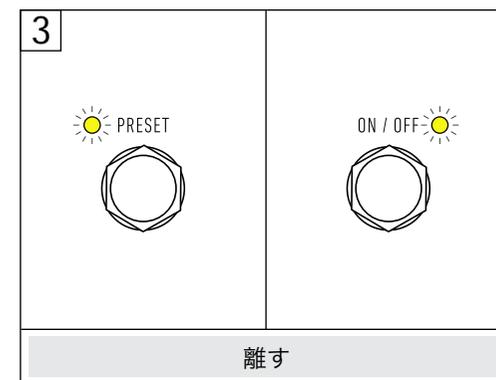
注意：デフォルトではELIPSEはタップ・テンポモードに設定されています。タップ・テンポモードに戻りたい場合は、1～3までは同じ手順に従ってステップ4でSWIRLノブを最小値に回し(ON/OFF LEDが緑色に点灯)、ELIPSEをタップ・テンポモードへと戻します。



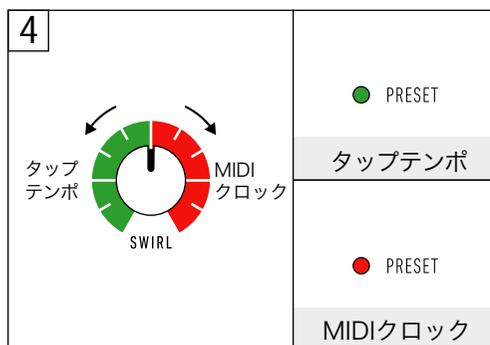
電源プラグを抜きます。



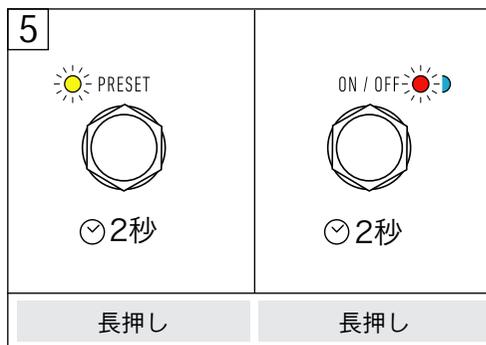
ON/OFFフットスイッチを長押しします。



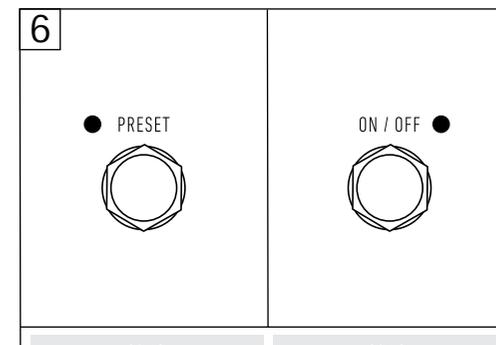
LEDが赤く点灯したら、フットスイッチを離します。



SWIRLノブはELIPSEのシンクモードをコントロールします。最大まで回すとMIDIクロックシンクロモードが有効になります(ON/OFFのLEDが赤く点灯します)。



両方のフットスイッチを長押しすると両方のLEDが点滅し始めます。



両方のフットスイッチを離して設定は終了です。

MIDIテンポ・サブディビジョンの使い方は？

テンポ・サブディビジョン(細分化)とは、4分音符を2つの8分音符や4つの16分音符に分割するように、1拍を細かく分割することです。

これは音楽のリズムにエフェクトをより正確に合わせるのに役立ちます。

ELIPSEのスピードが特定のテンポ(スピードノブ、MIDIタップテンポ、MIDIクロックなど)に合うように設定されている場合、このテンポに関連するサブディビジョンを変更することができます。ELISPEではサブディビジョンの値はMIDI CCメッセージ番号86を使って設定します。

以下のチャートはELIPSE内部で使用可能な各サブディビジョンに対して送信するCC 86の値を示しています。

バリュー値	サブディビジョンスピード値	音符
10	1 : 4	全音符
20	1 : 2	2分音符
30	2 : 3	付点4分音符
50	1 : 1	4分音符
60	4 : 3	付点8分音符
70	3 : 2	3連4分音符
90	2 : 1	8分音符
100	3 : 1	3連8分音符
110	4 : 1	16分音符
120	6 : 1	3連16分音符



注意：内部プリセットやMIDIプリセットを保存する際、サブディビジョン状態の値は保存されませんのでご注意ください。

さらに、サブディビジョン状態は一度電源プラグを抜いて再接続しても、新しい値を受信するまでは最後に受信した値のままです。ペダルを標準的なスピード設定にリセットするには、MIDI CC番号86バリュー値50を送信してください。



ヒント：8分音符のように1:1より細分化された音符を使用すると、スピードノブを直接操作した場合よりも速いLFOスピードを実現できます。特にスピードノブを最大に設定し高いサブディビジョンを選択すると、実験的でより楽しい結果が得られることでしょう。

E L I P S E

仕様

TECHNICAL SPECIFICATIONS

機能

マルチ・モジュレーション・エフェクト - ANALOG MOPRING CORE特許技術

エフェクト : Tremolo, Harmonic tremolo, Rotary, Chorus, Vibrato, Flanger, Phaser, Vibe

プレミアムインプットステージと超ローノイズ出力

リレースイッチングによるトゥルーバイパス

エクスペッションペダル入力

MIDI入出力

1 x 内部プリセット

127 x MIDIプリセット

5mm厚ツアークグレードケーシング

仕様

入力インピーダンス : 1M Ω

出力インピーダンス : 100 Ω

寸法 : 奥行き11.2cm x 幅16.4cm x 高さ5.2cm

重量 : 850g

電源アダプターの要件 :

下記の定格アダプター(別売)をご使用ください : 9VDCセンターマイナス、最低150mA、200mA以上を推奨。

MIDI必要条件 :

ELISPEをMIDIスイッチャーやMIDIデバイスに接続するには、タイプAのMIDI-TRSケーブルのみを使用してください。最大128プリセットの保存・呼び出し、タップ・テンポ、MIDIクロック機能、タイムディビジョンバリエーション(詳細は19ページ)をコントロールします。